

Mizuho Bangkok Daily Market Report

MIZUHO

Dated of 2024/01/04

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.49	0.21
JPY/THB	0.2407	-0.0006
USD/JPY	143.29	1.30
EUR/THB	37.67	0.18
EUR/USD	1.0922	-0.0020
USD/CNH	7.166	0.017
SGD/THB	25.95	0.12
AUD/THB	23.22	0.05
USD/INR	83.29	-0.03
USD Index	102.49	0.29

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.484	0.012
10Y (THB)	2.744	0.014
5Y (USD)	3.903	-0.010
10Y (USD)	3.916	-0.013

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,042.8	-30.6
WTI (Oil)	72.70	2.32
Copper	8,517.0	-27.5

Stock

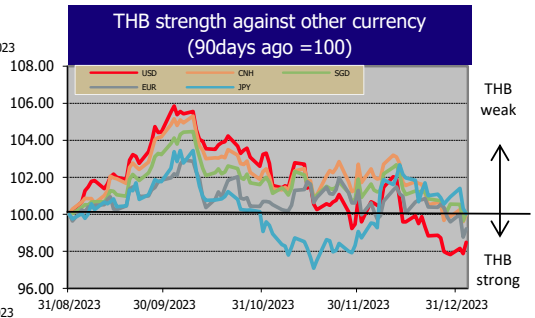
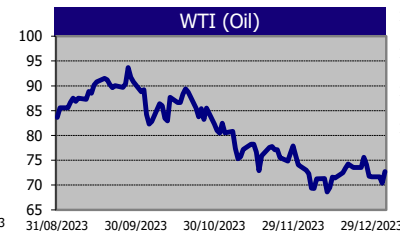
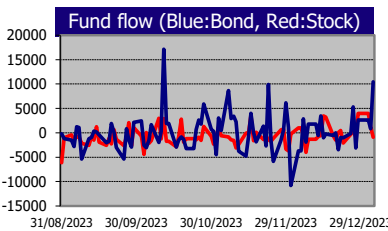
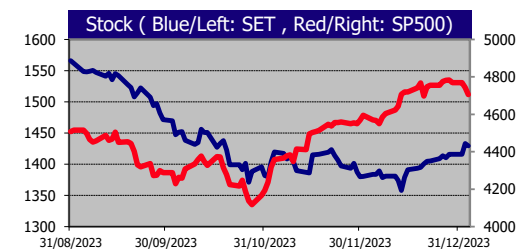
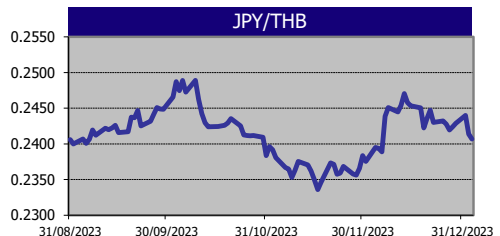
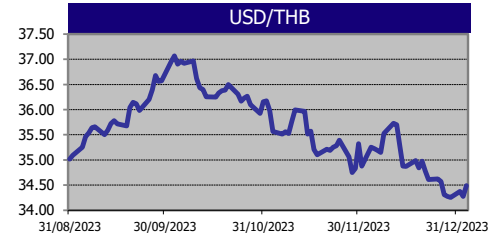
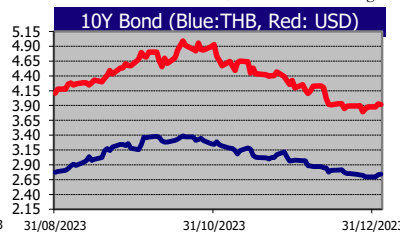
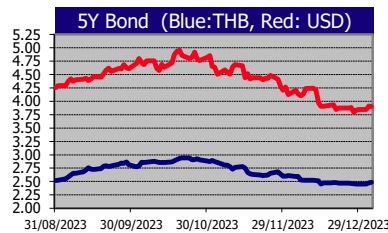
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,429.62	-3.76
NIKKEI (JP)	33,464.17	0.00
DOW (US)	37,430.19	-284.85
S&P500 (US)	4,704.81	-38.02
SHCOMP (CN)	2,967.25	4.97
DAX(GER)	16,538.39	-230.97

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(899)	-2155.1
Bond net flow	10,426	9573.8

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは上昇。34パーツ台前半で取引を開始すると、セーター首相が議会での演説で金融政策について言及したことが伝わるも、相場への影響は限定的となり、34パーツ台前半での方向感に乏しい推移が継続。ただ、欧州勢が参入してくるにつれ次第にドル買い優勢の展開に。パーキン・リッチモンド連銀総裁の「追加利上げの可能性は依然として残されている」との発言や米12月ISM製造業景況指数が市場予想を上回ったこともサポート材料となりドルパーツは34パーツ台半ばまで上昇した。その後、公表されたFOMC議事要旨(12月開催分)における「(政策金利は)ピークに達したか、近い」という見方に反応する格好でドルがやや弱含み展開にドルパーツは上昇幅を縮小。結局34.49レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は上昇。142円ちょうど付近で取引を開始。東京休日で取引閑散とする中、オープンと同水準で動意に乏しい推移が続いた。ただ、バンコク時間午後に入ると、次第に円売り優勢の展開に。海外時間、Fed高官の追加利上げの可能性を示唆する発言や堅調な米経済指標の結果を背景に一時143円台後半まで上昇した。終盤にかけてはFOMC議事要旨の内容を受けて143円台前半まで戻し、そのまま143.29レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

年明け以降ドル円は円安基調が続いている。昨日まで東京の市場参加者が休みだったこともあり、相場の方向感を探るにはまだ難しい局面ではあるが、米国の早期利下げ観測の後退でドルが全面高となっているほか、年始に発生した能登半島の地震についても、市場では今のところ円売り材料との見方が多い。2011年東日本大震災時の反応が円高だったことを思い返すと、安定した貿易黒字やレバトリの動きが所与だった当時の日本とは状況が色々変わっていることに改めて気がつく。今回は災害による日本の経済活動への懸念が素直に通貨売りに繋がっており、もはや1月のマイナス金利解除を予想する声もほぼなくなった。こうなると解除時期は早くても4月ということになりそうだが、もとより連続的な利上げという選択肢がなさそうな日銀にとっては、円安基調のさなかに貴重なカードを使う事態は避けたいはずであろうから、個人的にはドル円の動向も日銀の政策を占う材料の一つになると考えている。その意味で今次災害が円安相場を長引かせる要因になるのだとしたら、今年の相場に与えた影響は極めて大きなものだったと後に回顧することになるかもしれない。今年も米金融政策の動向は大事なテーマだが、日本経済、日銀の動きにも例年以上に注意を払っておきたい。(吉田)